

## 「プロジェクト支援ツール」の補足説明

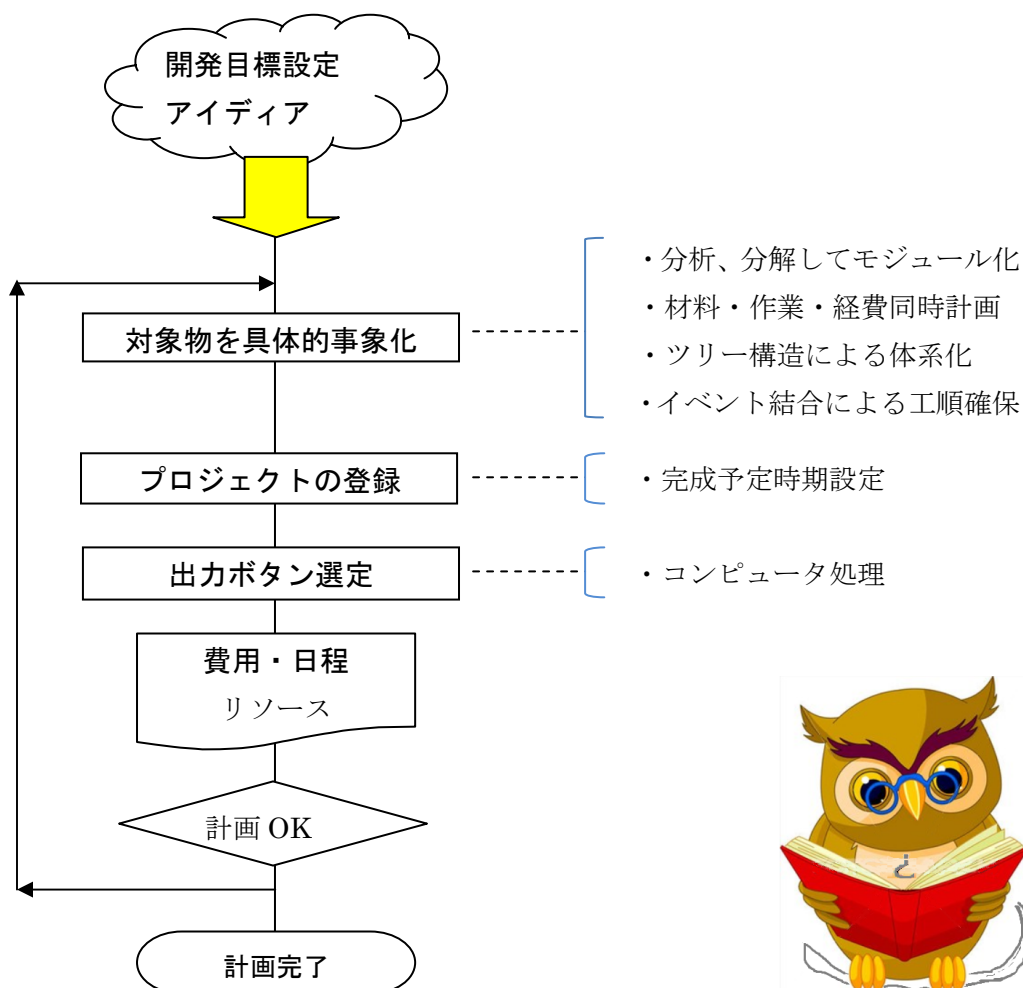
このツールは、アイデア、目標を具体化する過程に特徴があり、計画を楽しみながら仕上ることができます。

アイデア、目標から実現できたときの製品、成果等を想定します。その成果が得られるまでの過程を、完成物を念頭に置いて、完成物の一つ前の状態、また、その前のものと、上から下へと、完成品から部品、作業へと、分析、分解し、モジュール化して、ツリー構造の計画に仕上げます。

ツリー構造とモジュール構造を組合せながら、内容を分析、分解しながら記載するので、自然に水平的また垂直的思考を取り組むようになる特徴を備えています。

具体化された計画が出来ると、内容を日程、山積、問題点指摘の諸表に展開、表示させて、開発期間、費用を検討し、要すれば、計画の修正を繰り返し、目的に叶った実行計画を作成します。

従来の計画法との違いは、最初に、予算・工程があって、計画の線図／ガントチャートを書くことから始めるのではなく、目標を達成するための方策を固めて、それをコンピュータ処理して、日程表／ガントチャートを表示させ、必要に応じて、初期計画を見直すことで、目標に求められる予算、開発期間などに収斂させるようにすることです。



## 1. 特徴

- (1) 広範囲の業務に対応  
新製品開発は勿論、調査業務の見積・実行計画、販売企画等にも適用可能です。
- (2) プロジェクト規模の制限  
数万円から10億円程度の規模まで、広範囲のプロジェクトに利用可能です。
- (3) プロジェクトの本質考察を優先、予算・工期は結果から収斂  
最初に予算、工期等が決められてガントチャートを書き始めるのではなく、最初はプロジェクトの本質を考察、シートに記入、内容を多くの評価資料に出力させます。結果を考察し、要すれば、入力内容の修正を繰り返し、目標の予算、工期に収斂させます。
- (4) 多面的考察によるプロジェクト計画  
原価、日程、或は開発の技術的問題点など多面的に考察しながら、計画を作ることができます。開発品、プロジェクトの機能・構造をモジュール化しながら、ツリー構造を作ります。ツリーとモジュールの特性を生かすことで、水平思考と垂直思考のコンビネーションを助長させます。
- (5) 計画作成効率  
アイデア、願望をメモ、線表等読める情報に変換するとき一つの表で総ての情報が記入できるので、能率良く計画作業を高品質で完成できます。
- (6) チームワーク  
モジュールは他のモジュールの親にも子としても使用できるので、チームで企画を纏めることが可能です。
- (7) コンピュータによるサポート  
モジュールで作られた計画を、例えば、見積要求書の作成、日程表、特定開発要員の必要時期、作業量等を具体的に示すためのシステムを完備しています。
- (8) 計画シミュレーション  
計画実行時の状況をエクセル画面で考察、必要な場合は、モジュール構成を修正して再出力・・・素早く適切な計画の追求が可能です。
- (9) 実績収集による管理  
容易に生産管理システムへ結合可能で、計画と実績の自動比較等が可能になります。

## 2. 方策の概要

- (1) アイデア、プロジェクト全体構想の把握  
完璧なものでもなくとも、プロジェクトをツリー状に細部に向かって、問題・構造を分解することが出来る程度の構想が最初に必要です。分解して行く段階で、新しい問題点、着想が浮かび上がってきますので、プロジェクトの内容が明確になって行きます。  
漠然としたもの、研究して解明しなければならないものがあつた場合は、当面、ブラックボックスの状態に残して、つまり、ブラックモジュールの形で全体の構造の中に組込んで置いて、後でそのモジュールを解析して、具体的な物に変えるようにします。

本システムではツリー構造は完成したものを横型のツリーで表示しますが、記入するときは、表形式で行います。

一般にツリー構造では、枝が違うノードの結合は許されませんが、本システムでは、これらのノードの開始又は終了日に関して、例えば、開始日と終了日を繋げる等ができるように工夫してい

ます。

(2) 着想を形あるものに変える手伝いをする

思いつき、観念論を、開発作業、設計作業、計画する作業、現場作業、外注、作業契約、部材購入等に変換します。

作業、契約等には、見積の期間、作業時間、費用及び関連する業務の順序情報を入れます。工程順序等は、相対的な日数差、またはイベントを結合させることで表現させます。

作業、購入物への変換は、プロジェクト或は対象物がある程度分解してからのほうが考え易いのでプロジェクトを構成要素別に区分けします。

区分けされたものを一つのモジュールとして、更にブレイクダウンして、下位のモジュールを作り、最終的には作業や部品のエレメントの集合物にします。

ブレイクダウンの過程で、期間、作業時間、費用の計画値を組込みます。

これら一連の処理は、弊社書式のエクセル「展開部品・モジュールマスタ」及びそれを補佐する「材料作業マスタ」を使って行います。

(3) チームによる開発作業

プロジェクトをモジュール構造物に分解できること、モジュール詳細をエクセルで書込めることから、内容を容易に分離・結合することができます。従って、部分的にモジュールを分けて担当できるので、規模的、金額的に制約のない大きなプロジェクトの企画が可能になります。

(4) モジュール内容の実装

コンピュータを使って、作成したモジュールを日程表、山積表、見積要求、費用、各種チェック帳票に加工します。

(5) 開発計画の検証

具体的に示された計画内容を、開発目的、期限、予算などに照らして改善点を調べます。

改善は計画モジュールを修正する方法で行います。

満足できる結果が出るまで、モジュールの修正、実装の繰返しシミュレーションを行う必要があります。

### 3. 適用範囲・対象

新製品企画するとき、プロジェクトを企画するとき、企画の内容に拘らず、構想をブレイクダウンして行けるものであれば、全てにこのツールが適用できると考えます。

新製品開発・製造、フィージビリティスタディ、調査業務の企画などです。

ブレイクダウンの仕方、モジュールの作り方には、それぞれの企画に応じた工夫が必要ですが、補佐をするシステムは十分に対応でき、企画業務の品質の向上と迅速化にお役に立つと確信しています。

#### あとがき

このシステムを使っていて、線表等で計画することと比べて、良いと思うことは、内容を細かく掘り下げるように何時の間にか引き込まれることです。

そのために、時間が掛ります。しかし、エクセルを使っているので、別名を付けて保存、時間を置いて再開することができます。

計画が出来ると一気に、日程、山積、原価などが表示されるので、便利と感じています。また、出力は、新規案件の見積に、そのまま活用できます。

以上